

ヒートアイランド対策技術分野（建築物外皮による空調負荷低減技術） の進捗状況及び今後の予定について

1. 平成19年度の事業報告

(1) ワーキンググループ（WG）開催経緯等

○平成19年度は、国負担体制2年目として本分野の環境技術実証モデル事業を実施。

19年7月26日	第1回WG開催 (ヒートアイランド対策技術（建築物外皮による空調負荷低減技術）実証試験要領（第2版）の検討及び実証機関の公募・募集に関する検討等)
12月21日	拡大WG開催 (環境技術実証モデル事業の概要について、事業や対象技術への要望・意見、実証によるメリット等の向上についての要望・意見、手数料体制への移行にあたっての要望・意見)
20年2月6日	第2回WG開催 (手数料項目案の検討、実証試験要領の見直しについて)
3月6日	第3回WG開催 (実証試験結果報告書の検討、実証試験要領の見直し)

(WG検討員名簿は資料1-4-2 参照)

(2) 実証試験状況等

実証機関：財団法人 建材試験センター

実証対象技術：窓用日射遮蔽フィルム、窓用コーティング剤、
窓用後付複層ガラス 合計32技術

2. 今後の予定

<平成19年度分>

○4月中、下旬に実証試験結果報告書を公表予定。

<平成 20 年度分>

- 4 月中、下旬に実証運営機関を公表。
- 5 月に実証試験要領を確定し、実証機関の募集の開始予定。

3. 拡大WGの要望事項等(実証事業に係る課題事項)

(1) 各分野での実証に関する要望、実証事業の運用に関する要望

- 日射遮蔽フィルムは、夏場のヒートアイランド対策として有効だが、調光に要するエネルギー増加を招く恐れがあるのではないか。
- 実証試験結果報告書に掲載している製品の写真は、「眩しさ」の参考として掲載していると考えられるが、わかりづらい。撮影・掲載方法に工夫が必要ではないか。
- 太陽熱高反射防水シートは、室内の空調負荷を低減する効果もあるので、実証対象技術として取り上げることはできないか。

(2) 実証事業のメリット向上に関する要望

- メリット向上のためには、他の制度（例 公共工事共通仕様書）との連携を図ることが必要ではないか。
- 一般市民に対する実証試験結果の周知および理解促進をはかるための広報活動（より平易な表現による広報等）をより積極的に実施すべきではないか。
- 環境省のヒートアイランド対策技術パンフレットで日射遮蔽フィルムが取り上げられていない。ヒートアイランド対策技術の1つとして普及啓発を進めるべきではないか。
- 公的施設で実際に設置し効果を測定したり、地方自治体でのトライアル発注制度を推進したりできないか。
- 実証試験で想定している環境と実際の導入環境との差を実証試験結果報告書等で説明できないか。

平成 19 年度環境技術実証モデル事業検討会
ヒートアイランド対策技術ワーキンググループ 検討員名簿

足永 靖信 独立行政法人 建築研究所環境研究グループ 上席研究員

近藤 靖史 武蔵工業大学工学部建築学科 教授

佐土原 聡 横浜国立大学大学院環境情報研究院 教授

下田 吉之 大阪大学大学院工学系研究科 准教授

武田 仁 東京理科大学理工学部建築学科 教授

森川 泰成 大成建設株式会社建築技術開発部 部長

森田 浩康 大阪府環境農林水産部 みどり・都市室地球環境課 課長